

# コミュニケーション

communication

No.107

2024.3月号

トナカイの親子(ルミと雨瑠)。  
雪の動物園で園内をお散歩しました。

## Contents

- P2~3 園長あいさつ／こんにちは!あかちゃん／  
移動動物／訃報／飼育動物数
- P4~7 【特集】大森山動物園開園50周年を振り返って／  
これからの動物園が目指すもの～51年目からの挑戦～
- P8~9 飼育レポート／動物病院から
- P10~11 イベントレポート
- P12 飼育日誌／お客さまの声／かたばた通信



あきぎん 大モリンの森

ちょうどいいから  
住みやすい! 秋田市  
LIFE  
秋田県動物園協会  
市民と広げるまちへの誇りと愛着

園長あいさつ

## 50周年を終え、未来に



園長 小松 守

開園から半世紀、大森山動物園の50周年を無事に終えることができました。「ありがとう50年〜つながり、ともに未来へ〜」のテーマのもと、多くの市民、来園者とのつながりを確認しながら節目を祝うことができました。心より感謝申し上げます。

9月の記念式典を軸に様々な周年行事が行われました。来園者の思い出の写真でつくられたモザイクアートや花壇のモニュメント作品は入園ゲートの印象を大きく変えてくれました。また、50年目にスタッフが思索したさまざまなサービス活動は未来に向けた動物園の胎動を感じさせていました。大

森山の名物イベントである「まんまタイム」等に加え、動物の遊び道具づくりなど、参加・体験型でより楽しく動物を身近に感じ学べるイベントの試行、あるいは大森山の自然を活かした「大森山自然塾」の開催、さらには過去に実施した動物ウルトラクイズをリニューアルしての実現など、飼育員のアイデアで新企画が登場しました。

動物園の運営がますます厳しさを増す中、動物園はその存在意義を世に問いかけながら時代に合わせたサービスの模索が必要になってくるはず。こうした試みは、51年目からの大森山の大事な活動の一つとして成長させたいものです。



来園者制作のおもちゃで遊ぶムーン(50周年記念イベントで)

## こんにちは! あかちゃん

2023年の1年間に大森山動物園で生まれた赤ちゃんをご紹介します。

### ニホンイヌワシ

2023年3月26日と27日に、それぞれ孵化しました。無事に巣立ったのは5年ぶりです。西目(メス)と紫雲(オス)の間に生まれた卵ですが、安定して卵を抱くことができなかったため、2つの卵をベテランペアのたつこ(メス)と信濃(オス)に預けました。

2つの卵が孵化した後、1羽のヒナを元の親に戻し、2羽とも順調に成長しました。



紫雲 楓音 3月26日撮影

### トナカイ

2023年6月2日に5年ぶりに生まれました。2018年に大森山で生まれた春来がお父さんで、2020年に那須どうぶつ王国(栃木県)から来園したルミがお母さんです。ルミは初めてのお産で心配でしたが、生まれた直後に子どもは、しっかりおっぱいを飲み安心しました。雨の日に生まれたルミの子どもということで、「雨瑠」という名前になりました。



雨瑠/メス 6月2日撮影

この他、フクロテナガザル、ワオキツネザル、フンボルトペンギン、ジャンボウサギ、プレーリードッグ、モルモット、インドクジャク、アカカンガルー等にも赤ちゃんが生まれています。

元気だね!

## 大森山を後にした動物たち

### ヨーロッパフラミンゴ

2023年6月8日にヨーロッパフラミンゴのオス3羽とメス3羽が多摩動物公園(東京都)に旅立ちました。当初、2年前に移動する予定だったのですが、近年猛威を振るう高病原性鳥インフルエンザの影響により移動の延期が続きました。



すいか/メス

### ノドジロオマキザル

2023年7月7日に市原ぞうの国(千葉県)に引っ越ししました。ノドジロオマキザルはちょいワルな顔つきですが、とても頭が良く、見ていて飽きない動物です。市原ぞうの国でも人気者になってほしいものです。



コーディ/オス 一平/オス

この他、シロフクロウのマーブルが市原ぞうの国へ、コモンマーモセットのそらまめがしるとり動物園(香川県)へ、ジャンボウサギのけいこが仙台市八木山動物公園へ移動しました。

よろしくね!

## 仲間入りした動物たち

### アムールトラ

繁殖を目的に、2023年3月1日に九州自然動物公園(大分県)からやってきました。立派な体格にもかかわらず少し臆病なシュウは、外展示場になかなか出られませんでした。その奮闘の様子については8ページの飼育レポートをご覧ください。



シュウ/オス

### シマフクロウ

ココラは釧路市動物園から2023年9月21日に、メスのアオハ(R青から改名)は旭川市旭山動物園から同年9月28日に来園しました。絶滅が危ぶまれているシマフクロウの域外保全として、本州では初の繁殖に取り組みます。詳しくは8ページの飼育レポートをご覧ください。



ココラ/オス

アオハ/メス

### ラマ

2023年7月6日に市原ぞうの国(千葉県)から来園しました。おはぎはまだ幼く、モスは成長したラマです。おはぎはトレーニングを重ね、秋の動物ふれあいフェスティバルで動物パレードに参加しました。



モス/メスとおはぎ/メス

この他、ホンドフクロウやグリーンイグアナが仲間入りしました。

## 訃報 忘れないよ...

### ライオン

2023年10月28日に亡くなりました。1997年に多摩動物公園で生まれ、2007年に来園しました。来園後、オスのカズとの間に2頭の子どもをもうけ、カズが亡くなった後はオスのラガーと仲良く暮らしました。26歳という超高齢でしたが、晩年になっても天候が穏やかな日は外に出たがるなど、元気なおばあちゃんでした。



マンゴー/メス

### ノドジロオマキザル

2023年1月6日に亡くなりました。ナナエは1990年に当園で生まれました。チャールズが1993年に来園したのち、夫婦になった2頭の間には10頭の子どもが生まれ、大所帯となりました。30歳を過ぎてもチャールズとの仲は良く、お互い毛繕いをするなど、かわいいおじいちゃん、おばあちゃんという感じでした。



ナナエ/メス

### カナダヤマアラシ

もずくは2009年に当園で生まれました。おっとりした性格で、2足歩行したり、ムウムウと鳴いたり、とても愛嬌があり人気者でした。14歳と高齢だったこともあり、2023年12月18日に亡くなりました。



もずく/オス

この他、アカカンガルー、ツキノワグマ、プレーリードッグ、シバヤギ、ホンダタヌキ、マーコール、ミーアキャット、ニホンコウノトリ、グリーンイグアナ等が亡くなりました。

### 飼育動物数(12月末時点)

哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	魚類	無脊椎動物	合計
49種 331点	25種 120点	13種 26点	3種 5点	3種 17点	1種 23点	94種 522点

特集

# 大森山動物園開園50周年を振り返って

大森山動物園が開園50周年を迎えるにあたり、真っ先に取り組んだことは「テーマを決めること」でした。職員全員からアイデアを募り、頭をひねって絞り出したテーマが「ありがとう50年～つながり、ともに未来へ～」です。

これまでの半世紀を支えていただいた多くのお客さまや動物たちに感謝の気持ちを伝え、ともに歩んできた地域の学校・企業・ボランティア団体との「つながり」を再確認し、ともに未来へ進んでいこうとの思いでアニバーサリーイヤーがスタートしました。

3月の開園から11月の閉園までさまざまな記念事業を開催しましたが、その中でも「つながり」を強く感じたイベントや企画について、写真とともに振り返ります。

企画広報担当 主席主査 金 大咲

## 1 アートで世界とつながる

3月18日、記念すべき50回目の開園セレモニーを彩ってくれたのは、秋田公立美術大学との連携事業「大森山アートプロジェクト」による記念モニュメント2作品でした。この作品は日本・韓国・台湾の美術大学生のプレゼンにより選考されたデザインを、秋田公立美術大学とボランティアガイドたいうの会が共同で制作したものです。大森山動物園の入園ゲートを彩る新たなモニュメントが誕生しました。



作品名「The song of life」



作品名「Oh happy day」



立体制作を手伝うボランティアガイドたいうの会会員と、塗装を担当する美大生

## 2 パンで笑顔がつながる

4月1日、株式会社たけや製パン様のご協力で「どうぶつコラボパン」を発売しました。「オモリンのホットケーキ」や「ユキヒョウ・ヒカリちゃんのチョコパン」など、9月までに7種類を販売するにあたり、飼育員がアイデアを出したり、パッケージ裏の一言メモを書いたりしました。新しい商品が発表されるたびにみんなの笑顔があふれました。



(株)たけや製パンと飼育員の二人三脚で作ったコラボパン(一部)

- 3月18日 ● 50年目の通常開園スタート
- 大森山アートプロジェクト2022による記念モニュメント2作品をお披露目
- 活性化企画提案事業でさまざまな企業とのコラボグッズが販売開始



栗田支援学校の生徒が制作した記念グッズ「50周年記念グラス」と「ペーパーホルダー」



カラフルなペーパークリップ(秋田協同印刷)と人気動物のクリアファイルセット(秋田中央印刷)

- 7月9日 ● IPP株式会社企画提案 50周年記念プリントラックお披露目
- 13日 ● 男鹿水族館GAO、加茂水族館との3園館連携出前授業を浜田小学校で開催
- 15日 ● 50周年記念親と子のふれあい写生大会～未来の動物園を描こう～開催(～8月6日)
- 23日 ● 50周年記念羊毛イベント「羊毛で作って知ろうヒツジさん!」開催
- 25・26日 ● 50周年記念サマースクール「未来の飼育員は君だ!」開催
- 28日 ● 50周年特別企画「大森山動物園ナイトキャンプ」開催



- 8月2日 ● 「動物園があなたの夢叶えます～動物とつながる Special day～」開催
- 19日 ● 秋田銀行コラボ企画 50周年記念メッセージボード制作ほか
- 29日 ● 新屋図書館コラボ企画第3弾「POPで楽しむ動物の本展」開催(～9月18日)
- 30日 ● 秋田銀行・栗田支援学校コラボ企画 50周年花壇制作

- 10月15日 ● 自然科学学習館との50周年特別共催企画「どうぶつサイエンスII～身近な自然から学ぼう～」開催
- 21日 ● 新屋図書館コラボ企画第4弾「飼育員さんと本の話しよう」開催



3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

- 4月1日 ● たけや製パンコラボ企画「どうぶつコラボパン」発売
- 29日 ● 50周年企画写真展「今でも記憶に残る動物たち」開催(～5月7日)
- 30日 ● 大森山ゆうえんちアニバ観覧車リニューアルオープン

- 5月27日 ● 新屋図書館コラボ企画第1弾「出張/新屋図書館・おはなし会」開催

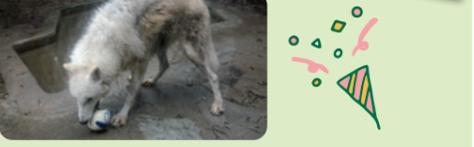
- 6月11日 ● 新屋鹿嶋祭に移動動物園でウサギやフクロウが出張!
- 17日 ● 新屋図書館コラボ企画第2弾「動物園を知るツアー」開催
- 18日 ● 50周年記念キャラバンで鶴岡市立加茂水族館(山形県)へウサギやモルモットが出張!

- 9月1日 ● 開園記念日
- 大森山アートプロジェクト2023「動物園の思い出の写真で作るモザイクアート」お披露目
- 50周年記念映像公開



- 「思い出の写真展」「大森山今昔ものがたりパネル展」開催(～11月30日)

- 情報誌コミュニケーション 開園50周年記念号発行
- 2日 ● 記念式典開催
- キッチンカーフェスタ(～9月3日)
- 特別イベント「アニマル応援隊★学んでろう!～オオカミがよるこぶ手ZOOくらアイテム～」開催



- 3日 ● 特別イベント「3園館連携特別キーバーストーク」 「50th大森山ウルトラクイズ」開催



- 9日 ● 50周年記念番組「ありがとう50年 これからもZOOっ!」放送(AKT秋田テレビ)
- 10日 ● 鳥海イヌワシみらい館(山形県)コラボ企画「ワッシーくん&オモリン大森山クラブDAY」開催
- 18日 ● 動物愛護フェスティバルあきた2023に移動動物園でインコやモルモットが出張!(秋田県動物愛護センター)
- 24日 ● 50周年記念キャラバンで弥生いこいの広場(青森県)へワッシミズクやウサギが出張!



# 飼育レポート

## report.1 本州初のシマフクロウの繁殖に向けて

飼育展示担当 佐々木 祐紀

本州では初めてとなる絶滅危惧種「シマフクロウ」の繁殖を目指し、2023年9月21日に釧路市動物園からオスの「ココラ」が、9月27日に旭川市旭山動物園からメスの「アオハ(来園時はR青。のちに改名)」が来園しました。2羽が過ごしやすい環境を整えて準備していましたので、待ちに待った来園でした。アオハの到着日から2羽の見合いの開始となり、どんな行動をするのか、トラブルは起こらないか、などの不安を抱えながら動物舎を観察していました。

見合いは、2部屋に分けた飼育のため、仕切りの壁を金網に取り替え、互いに隣の部屋の様子が分かるようにしました。同居の際に金網の仕切りを外すと2部屋が1部屋になる仕組みです。



アオハ ココラ

金網の部分には止まり木を付けるとともに、網越しでの闘争に備え、透明な板を貼って直接爪が出ないようにしました。

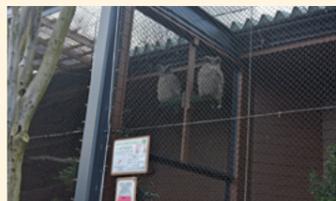
室内に取り付けたカメラで行動を観察すると、見

合い初日は、アオハがココラのことが気になるのか長い間見ている状況が続きました。その後、止まり木に移ったり、足を出し合ったり羽根を膨らませる威嚇ポーズなどが見られましたが、大きな問題はありませんでした。

それらの行動も2日目くらいから見られなくなり、急にもう1羽が止まり木に来て平然としている状態が多く見られました。1か月を待たずに2羽を隔てていた透明な板も取り外し、次のステップへと進みました。今後もトラブルが見られず、鳴き合いが見られるとペアリングが良好で同居のサインになります。観察を続けながら、2羽が鳴き合うことを願うばかりです。



アオハ(左)とココラ



止まり木に止まるココラ(左)とアオハ

## report.2 長い時間をかけたシュウの展示訓練

飼育展示担当(獣医師) 湯澤 菜穂子



2023年3月、オスのアムールトラのシュウが、当園で飼育展示しているメスのカサンドラのペアリング相手として、はるばる大分県の九州自然動物公園から仲間入りしました。

シュウは当園の飼育員にはすぐ慣れた様子でしたが、慎重で繊細な性格から屋外の展示場に出るのをひどく怖がり、なかなか外へ出ようとしませんでした。寝室では食欲旺盛なシュウも、展示場に置いたエサは取りに行こうとはしません。ただ、外に興味はあるようで、シュート(出入口)から外へ顔をのぞかせていました。シュウのペースで新しい環境に慣れてもらうため、展示場と獣舎内を自由に行き来できるようにして待つこと…半年以上!10月になっ

てもまだ展示場に出ていないことの方が多しシュウでしたが、初めは顔だけ外にのぞかせていたのが、肩まで、上半身、腰まで、とわずかずつながら前進してきていました。

シュート周辺からなかなか先へ踏み出せない期間が続いていましたが、夜間も展示場へ自由に出入られるようにして展示訓練を継続した結果、11月に急成長をみせ、日に日に行動範囲を広げていき、ついに展示場全体を探検できるようになったのです。12月は休園期間となりましたが、シュウはシュートを閉めても悠々と展示場を歩き回るようになり、プールに入ったり、展示場でも飼育員から肉を受け取ったりできる余裕も出てきました。

ぜひ、展示場でリラックスしているシュウに会いに来てください。



飼育員から肉を受け取るシュウ



悠々と展示場を歩くシュウ

## report.3 ともに挑戦! ラクダのさっちゃん

飼育展示担当(動物専門員) 館岡 幸枝

2022年8月に仲間入りしたメスのフタコブラクダの幸は、来園して約半年が経った頃、ぎこちない歩き方をするようになりました。獣医師とともに四肢を確認すると、球節という前肢の関節の曲がり方に異常があることが分かりました。このままでは近い将来、歩くことはおろか立つことさえできなくなる可能性が高く、命に関わります。

獣医師と話し合った結果、球節を元の位置に戻すため前肢にサポーターを巻き、ヒールのついたサンダルを履かせてみることにしました。そのためには、幸に前肢を触られることに慣れてもらう必要があります。

大好物の草食動物用ペレットを使用し、少しずつ触られることに慣れてもらった後、前肢を上げることも覚えてもらいました。幸は元々物怖じしない性格のため、怖がりたり嫌がりたりすることはほとんどなく、サポーターとサンダルを装着することができるようになりました。

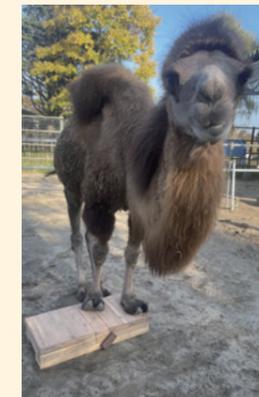
また、骨や腱の状態を確認するためのレントゲン撮影も行い、少しハードルの高い「撮影用の台に乗る」という行動も幸はスムーズに覚え、無事に撮影することができました。

ラクダでは前例のない治療のため、試行錯誤の毎日ですが、

必ず回復すると信じて今後も獣医師と協力して全力で治療に取り組んでいきます。どうぞあたたかく見守ってください。



サポーターをつけるトレーニング



台の上に脚を乗せる幸



## 動物病院から

## 動物の検疫について

飼育展示担当(獣医師) 主席主査 小川 裕子

新たに動物園に仲間入りする動物は、病気がないか、伝染病に罹っていないか等の健康状態を確認するため、園内の動物病院で時間をかけて検疫します。動物病院に入れない大きな動物は、直接動物舎で検疫する場合があります。

検疫に時間をかける理由は、多くの伝染性疾患には潜伏期間があるからです。輸送中や新しい環境での生活は動物にとって強いストレスになり、ストレスを感じ免疫が落ちると、体の中に潜んでいた病原体が原因となる病気になりやすいのです。

今回は、メスのラマ2頭(モス・おはぎ)を迎えた時の様子を紹介します。モスとおはぎは空いている動物舎に入る予定だったことや、同じ動物園から来たことなどから1頭ずつ分けずに同じ動物舎で検疫を行うことにしました。

ラマは複数いても他の個体のフンに重ねるように1か所にフンをする習性があります。モスとおはぎは体格差がありフンの大きさが異なったため、識別しやすくスムーズに糞便検査ができました。なぜこんなことで喜んでいるかというと、もしフンに差異が無かった場合は、飼育員が張り込みをしてどのラマが排便しているか確認して採取するか、数か所のフンを検査することになった

からです。フンが取りやすかっただけで幸せを感じられるなんて、改めて獣医師はおもしろい仕事だと思いました。

2頭は搬入後数週間、病気やケガ等なく穏やかに過ごし、検査も異常が無かったため検疫終了としました。その後、おはぎは園内のお散歩トレーニングなどを行い、どうぶつパレードや写真撮影など大活躍しています。モスもトレーニングを始めていますので、今後が楽しみです。



秋のイベントでパレードに参加したおはぎ



到着直後のモスとおはぎ

# イベントレポート

開園50周年のアニバーサリーイヤーに開催したイベント(後半)を紹介します。

※前半(3月～8月上旬まで)のイベントについては、前号No.106号で紹介しています。

## 夜の動物園 (8月11日～16日 ※13日を除く)



マーコールとライトアップされた観覧車

動物たちにスイカをプレゼントする「スイカタイム」を行うなど、夏ならではの雰囲気を楽しんでいただき、期間を通して約15,000人が来園しました。



ライオンのトモにスイカをプレゼント

## 50 & 25! 大森山動物園・新屋図書館コラボ企画

(8月～10月)

移転開館25周年を迎えた新屋図書館とコラボイベントを5月から継続して開催しました。第3弾は飼育員がおすすめする動物に関する本を展示し、第4弾では動物が登場する本を持ち寄って読書会形式でお気に入りの本を紹介しあいました。



飼育員手作りのPOP付きで展示しました

## 開園50周年記念メインイベント (9月1日～3日)

開園記念日の9月1日にあわせ、記念式典のほか、園内ではオオカミが喜ぶおもちゃ作りや男鹿水族館GAOと加茂水族館の飼育員も集まったキーパーズトーク、大森山ウルトラクイズなどを開催しました。

※詳しくは4ページからの特集をご覧ください。



オオカミのムーン、喜んでくれるかな?



楽しい!



クイズには問題にちなんだ動物も登場!

## 秋の動物ふれあいフェスティバル (10月1日)

4年ぶりとなる「どうぶつパレード」を開催! ペンギンやラマが間近で行進する様子を撮影したりふれあったりするお客さままでにぎわいました。また、動物の衣装をした飼育員を探して動物の解説カードをもらう「アニマルカードゲットだぜ!」では、子どもたちが元気いっばいに飼育員を探し回る姿が印象的でした。



アニマルカードゲット!



お客さまの近くをパレード

## どうぶつサイエンスII～身近な自然から学ぼう～ (10月15日)

自然科学学習館との共催で実施。大森山公園を散策しながら昆虫や植物を観察しフィールドビンゴや生き物マップ作りをしました。また、公園で集めた草木を使ってヘビの冬眠部屋を作り、動物たちの冬の暮らしを学びました。



みんなで公園を散策



大森山公園自然マップが完成!



ヘビのおうち作成中

## いい夫婦の日イベント (11月19日)

今年も「いい夫婦の日」にちなんだイベントを開催しました。夫婦やカップルの皆さんを対象に特別ガイドツアーやお互いのメッセージと写真を詰めた記念カード作りを行いました。



トナカイと記念撮影も!

## 大森山自然塾 (4月～11月)



9月はつる植物を解説

動物園で飼育している動物たち以外の生き物に焦点を当てたイベントを毎月1回、その時期に合わせたテーマを決めて行いました。雪の動物園期間中には活動内容を紹介するパネル展も開催しました。

## さよなら感謝祭 (11月26日)

シーズンの閉園イベントとして、お客さまや動物たちへの感謝を込めて開催しました。セレモニーでは、亡くなった動物たちに慰霊の献花を捧げ、思い出深いエピソードをお話するトークイベントを開催しました。また、無料エサやり体験やトナカイ・ポニーとの記念撮影会を行ったほか、まんまタイムなどの恒例イベントもボリュームアップして行いました。



感謝祭セレモニー



トークイベント



1年間の活動の記録を展示しました

## 雪の動物園

(1月6日～2月25日の土日祝)

今年で18回目となる「雪の動物園」を開催しました。冬ならではの動物たちの様子やトナカイ・ポニーの園内散歩、カピバラの湯っこなどの冬の風物詩を楽しみました。また、2023年にリニューアルし暖房設備が導入された大森山ゆうえんちアニパの観覧車が初めて冬期間に運転しました!



ポニーの園内散歩



ゆうえんちアニパの観覧車から望む冬の園内

## 今後のイベント

2024年通常開園

3月16日(土)～12月1日(日)

※期間中無休



# 飼育日誌



(令和5年7月1日～12月31日)

7/2	インドホシガメ	産卵あり(個体不明)。
7/3	タンチョウ	お市♀ 右羽軸出血、下嘴変形。
	ミニチュアホース	エルフィー♀ 夕方、単管パイプに絡まり失神。
7/4	ホンドリス	蜂の巣撤去に伴いリス移動(カイ♂を5番の部屋へ移動)。
	スバルバルライチョウ	大福丸♂ 足裏診察。抗生剤軟膏・ステロイド軟膏塗布。
	レッサーパンダ	ひなた♂ ミストに当たりながら寝ていた。
7/5	アムールトラ	シュウ♀ 展示場に出る。以前と同様にプール側電柵を警戒。
7/10	プレーリードッグ	群れと親子同居。
	ニホンイヌワシ	第1ペア 展示場内に捕食されたアオダイショウの死骸があった。
7/13	マーコール	ぐるる♂ 右前肢跛行の様子。
7/14	ミニブタ	豚熱ワクチン接種。
7/16		悪天候のため閉園
7/24	フタコブラクダ	幸♀ レントゲン撮影実施、消炎鎮痛剤・胃粘膜保護剤・フリードフレックス・ゼンピタン内服。
	ブラッサグエノン	おえん♀ 鼻出血
8/2	アフリカタテガミヤマアラシ	おこげ♂、キッシュ♀と下展示場のトロワ♀入れ替え。キッシュ左目点眼。
8/5	ラマ	ヒロ♂ 体が濡れるのを極端に嫌う個体だが早に散水中寄ってきて水を受けた(初)。
8/6	小動物舎爬虫類展示場	旧ブロンズトキのスペースで昆虫の展示を開始。
8/7	ジャンボウサギ	仔♂去勢手術。
8/9	カナダヤマアラシ	2頭猛暑により動物病院に緊急避難。
8/13	ホンドフクロウ	フクジロウ 体が濡れた状態で止まり台の下に挟まっていた。低体温。
8/14	アビシニアコロブス	レイア♀ 夜の動物園開園中、出産し始めるが、観察中は出産完了せず。逆子。
8/16	トナカイ	春来♂ 朝バテ気味だった。早朝にアブ等の影響で走り回ったと想定。
8/18	インドクジャク	親子(ヒナ2羽)をキジ舎向かいの小部屋に移動し、展示。
8/19	カピバラ	コムギ♂ シュートに挟み顔面と左前肢負傷。跛行あり。
8/23		観測史上最高気温38.5度。
8/25	アカカンガルー	みかん♀ 育児囊膨らんでいる。
8/30	シバヤギ	ユバ♂ 左角鞘脱落し、出血。
8/31	トナカイ	春来♂、ルドルフ♂ 一部袋角が剥がれている。
9/1	ニホンイヌワシ	風♂ 嘴が長くなってきて食べづらそうにしている。
9/6	トナカイ	親子お散歩トレーニング。
9/12	ニホンザル	サル山 個体識別作業のため、寝室に追い込み。♂1頭去勢手術。
9/21	エリマキキツネザル	カイン♂ 雨に濡れ低体温。群れに戻すと闘争あり。
9/22	ミニブタ	とん平♂ てんかん発作。
9/23	ミーアキャット	5194♀ 朝室内の扉前で仰向けで亡くなっていた。

9/24	コツメカワウソ	全頭健康チェック。
	ライオン	マンゴー♀ 展示。
	ベニコンゴウインコ	交尾らしき行動あり。
9/26		秋フェス動物パレード練習※動物あり
9/28	ヨツユビハリネズミ	ウニ♂ X線検査。
9/30	ノジロオマキザル	チャールズ♂室内収容後、他個体に激しく威嚇される。日向♀×カオル♀、交尾確認。
10/5	アフリカゾウ	夜間ボイラー稼働。
10/9		インコ舎サッシ取付け。
10/12	トナカイ	ルドルフ♂ 発情行動確認。
10/13	ケツメリクガメ	ゴダイ♂ 3日連続でケヤキの葉の未消化便排泄。
10/14	ユキヒョウ	アサヒ♀ フレメン後のローリング確認。(発情兆候) ヒカリ♀ ワクチン接種実施トレーニング下で成功する。
10/17	フンボルトペンギン	左右赤赤×右白黒 交尾確認、産卵あり。
10/18	キリン	鳥インフルエンザ警戒期間開始。
	カナダヤマアラシ	体重測定 2頭ともに体重増。
	ライオン	もず♂交尾行動。メープル♀は頑なに拒否。
10/22	ライオン	マンゴー♀ 採食なし。吹き矢にて抗生剤を投薬。室内床面にゴムマット設置。
10/27	ツル	八角ツル舎防風ネット取り付け。
10/31	ユキヒョウ	親子分け実施。
11/2	フンボルトペンギン	今年生まれ個体2羽 採血、マイクロチップ挿入。
11/3	カピバラ	カピバラの湯っこ開始。
11/5	コモンマーモセット	イツキ♂・ずんだ♂病院移動(繁殖用♂個体受け入れのため)。
	アカカンガルー	みかんの子顔を出す。
11/6	アカコンゴウインコ	メレブ 午後、床で横臥。
11/10	フラミンゴ	本日から夜間収容開始。
	アナグマ	冬ごもり用の巣箱設置。
11/13	ホンドタヌキ	マタタビ抽出物見向きせず。
11/14	トナカイ	ルドルフ♂ 両角落角。
11/15	アメリカビーバー	チャト♀ 麻酔下処置(歯切り)。
11/17	ユキヒョウ	獣舎通路内で柵越しにリヒトとアサヒの顔合わせを行う。
11/19	ホッキョクオオカミ	ニッキー♀ 収容直前に電柵を噛むが、ダメージはない様子。
11/21	グリーンイグアナ	イグリン 尾先、切断。イソジン消毒。
11/23	キリン	ケイタ♂ 驚いて外へ飛び出した際、角の先端を扉上部にぶつけ皮膚が剥離し出血。
11/24	ホッキョクオオカミ	メス群 2回ほど闘争確認。
11/25	ベニコンゴウインコ	6卵目の産卵を確認。卵の位置が安定しているので♀が抱卵している可能性が高い。
11/26	キリン	♀ 発情の可能性あり。ケイタ♂の追尾、フレメン活発化。清掃後収容(分離)。
11/27	アフリカゾウ	アングレット装着練習開始。
11/30	シマフクロウ	同居(仕切りを取り外す)。
12/1	シマフクロウ	アオハ♀ 右第2趾爪欠損。
12/2	シマフクロウ	中仕切り再設置。
12/3	アカカンガルー	みかん♀と仔(すだち)を♀カンガルー舎に移動。
12/4	ラマ	イヌワシ保全棟とみカンガルー舎雪囲い設置。
	ライオン	モス♀ まだ拒絶行動が多いが、頭絡装着できた。
12/5	フンボルトペンギン	全羽体重測定、マイクロチップ確認。
	オカメインコ	嘴整形、下嘴欠損。
12/6	キリン	ケイタ♂ 初めての採血(針刺し)を試みたが過敏性高く採血できず。

## お客さまの声

- 7/4 とても楽しく、有意義な時間を過ごせました!動物や自然についてもっと考えようと思います。ありがとうございました!!また来ます 😊🌟
- 8/15 触れるくらい近くで見られるところがよかったです。何回まわっても動物は違う動きをするから可愛い!
- 9/29 遠足の子どもたちがたくさんいて、このにぎやかさは動物園ならではだなと感じました。声の高さから楽しんでいるのがこちらまで伝わりました。
- 10/8 子どもが遊びながら学べる所や、大人が見てもすごいと思うサルの展示場、博物館みたいな骨の展示などがよかったです。デザインもすてきできれいでした。所々で飼育員の工夫がみられておもしろかった。
- 10/30 どうぶつ解説を聞きました。自分で見るより知識が深まり、教えてもらった動物が好きになりました。
- 11/1 園内ゆっくり回れて落ち着いたスペース、私のいやしスポットです。また来園します。50周年おめでとうございます。モザイクアートに写真を使って頂きました。ありがとうございます。次回も楽しみに来園します!
- 11/2 屋外で日なたぼっこをしていたライオンのマンゴーVS中に移動してほしい飼育員さんの攻防を以前見かけました。大変だろうけれど、なんだかほほえまして、撮影した動画を定期的に見返しています。楽しい思い出を大事にしていこうと思います。

## かたばた通信

2023年4月に秋田市役所に転職し、初めての配属先が大森山動物園企画広報担当になりました。右も左も分からないまま、記念すべき50周年のイベントに全力で取り組んでいるうちにあっという間に1年が過ぎてしまった印象です。

この1年で感じたことは、大森山動物園が来園者のみなさんや多くの関係者の支援から成り立っているということです。これまで動物園を支えていただいたみなさんに少しでも恩返しができるよう、これからも大森山動物園の魅力を残すことなく発信していきたいと思えます。よろしくお祈りします!(長谷川)



発行/秋田市大森山動物園

〒010-1654 秋田市浜田字湯端154番地 TEL 018-828-5508 FAX 018-828-5509  
E-mail ro-inzo@city.akita.lg.jp デザイン・印刷/秋田活版印刷株式会社

●動物取扱業者 秋田市長 穂積 志 ●事業所及び所在地 秋田市大森山動物園 秋田市浜田字湯端154番地  
●登録に係る動物取扱業の種別/販売:動-3-41 貸出し:動-3-42 展示:動-3-43  
●登録の年月日/2007年6月1日 ●有効期間の末日/2027年7月31日 ●動物取扱責任者/山上 昇 高橋 拓

大森山動物園

検索

https://www.city.akita.lg.jp/zoo/index.html